

「出前授業」・「現場見学会」を開催

～農業を身近に感じよう～

〈中国四国農政局四国東部農地防災事務所〉

＜概要＞

四国東部農地防災事務所では、地域貢献活動の一環として、藍住北小学校の5年生を対象に、地域の農業及び国営吉野川下流域土地改良事業が果たす役割について理解を深めてもらうため、平成23年7月11日（月）に出前授業を行い、7月15日（金）に本事業で造成中の水路の見学会を実施しました。

（1）はじめに

国営吉野川下流域土地改良事業は、農業用水利施設の整備により農業用水の水質改善などを行い、生産性の向上と農業経営の安定化を図るものであり、さらに地域農業の発展を通じた地域振興に資することが期待されます。

一方、本事業を通じた地域の農業の持続的発展のためには、本事業で造成される施設が将来にわたり適切に維持・管理・更新されることが必要となります。このためには、本事業の受益者のみならず、地域住民の方々に、本地域における農業とそれを支える農業用水利施設の重要性を理解してもらい、将来の維持・管理・更新の際の後押しをして頂くことが重要となります。

そのための取組の一環として、本事務所では地域を担うこととなる若い世代である小学生に、将来、直接的・間接的に地域農業を支援してもらえよう、本地域における農業と、本事業が果たす役割について理解を深めてもらうための取組を地域貢献活動の一環として行うこととしました。

その具体的な取組みとして、当地区の受益地である藍住町において、社会科の授業で地域社会について学習している藍住北小学校5年生（95名）を対象に、平成23年7月11日（月）に地域の農業や農業用水について出前授業を行い、続いて7月15日（金）に、今後の地域農業を支える農業用水路を実際に見てもらうため、本事業により造成中の水路の見学会を開催しました。

（2）出前授業

7月11日（月）の出前授業では、事務所職員が藍住北小学校において、食料自給率、徳島県や藍住町の農業、それを支える農業用水路を造成する国営事業等について授業を行いました。

はじめに、食料自給率と地域の農業について説明しました。日本の食料自給率は40%であることを紹介すると、半分以上が外国から輸入しているものであることに驚きの声があがりました。一方、徳島県の食料自給率は日本全体よりも高い48%であり、農業が盛んな地域であることを改めて認識している様子でした。地域の農業については社会科の授業で学習していることもあり、藍住町の主要農作物を当てるクイズでは次々と手を挙げて答えるなど、生徒の皆さんは積極的に参加していました。また、徳島県産の農作物が全国へ出荷されていることや、大阪市場で主要な地位を占めていることなどを知り、少し驚いた様子でした。

続いて、農業用水の役割と国営事業について説明しました。農業には多くの水が必要であること、その水は現在川の水やポンプでくみ上げた地下水を使っていること、その水を農地に届ける水路には、老朽化や家庭からの排水流入による水質悪化といった問題があることを



【積極的に手を挙げる生徒たち】



【質問する生徒】

説明し、これらを解決するため、国営事業で新しく作っている農業用水路について紹介しました。生徒からは、「これだけ大きな水路をつくるには、工事をしている人は全部で何人いるのか」、「なぜもっと近いところ（下流側）から水を取らないのか」など、多くの質問が出ました。また、授業終了後には、金曜日の見学会が楽しみだという声が多く聞かれました。

(3) 現場見学会

7月15(金)の現場見学会では、工事概要についての説明後、施工中の幹線水路内(2.8m×2.8m×59m)を見学しました。生徒たちは、出前授業で水路について説明を受けていたものの、実際に水路の大きさを体感し、将来この水路に水が通ることに驚きの声をあげていました。

また、見学の記念に水路内に絵やメッセージを書き記し、「がんばれ東北！」など東日本大震災からの復興を願う言葉や将来の夢など、多くのメッセージが書き込まれました。



【水路の上部を歩く生徒】



【真剣に説明を聞く生徒たち】



【壁面のメッセージ】

地上では、重機に乗車し、普段は触れることのできない重機の迫力や操縦の難しさを体験し、さらに、薬剤を用いて工事による汚濁水を浄化する実験を行い、実際にきれいになった水を見て関心を持った様子でした。



【重機の操縦は難しい！】



【きれいな水にするには？】



【集合写真】

(4) おわりに

最後に、生徒の代表から「貴重な体験ができてよかった」と感謝の言葉を頂き、無事見学会を終了しました。生徒からの感想文の内容は、重機に乗った感想（楽しかった・難しかった等）が約7割、水路の構造についての感想（大きい、涼しい、地下にあること等）が約4割、水路の役割についての感想（水が通る、良い作物が育つ等）が約1割、工事についての感想（大変さ、難しさ等）が約1割、絵やメッセージを書いた感想（楽しかった・思い出になった等）が約3割、汚濁水処理についての感想が約3割となっていました。重機に乗った感想が一番多かった一方で、この取組を通じ、藍住北小学校の生徒たちは、地域の農業や農業用水について関心を持ったようでした。今後も同様の機会を設け、地域の将来を担う子供たちの学習の一助となり、地域の農業について関心を持ち、理解を深めて頂けるよう、地域貢献活動を進めていきたいと考えています。